＜アトピー咳嗽（がいそう）・咳喘息・喘息＞

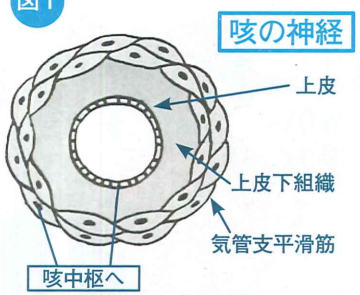
【はじめに】

近年お子様のアトピー等ばかりでなく、成人のアレルギー疾患も増加傾向にあるようです。生活習慣の変化なのか、大気中の化学物質によるものなのか、原因は明らかではありませんが、我々のもとに来られるアレルギー疾患の患者様は確実に増えている実感があります。その中でも呼吸器における代表的なアレルギー疾患である喘息・咳喘息・アトピー咳嗽についてお話しします。

【どんな病気？】

これらの病気はいずれも気管支の壁の中で、好酸球というアレルギーに関わる白血球が中心となって慢性的に炎症を起こしていることが根本的な問題だと考えられており、咳反射をおこす神経がその炎症で刺激されると咳が生じるのです。

図1



同じことが原因なのになぜ3つの病気に分けるのか、ご説明しましょう。気管支の壁には咳反射を生じる神経が、気管支上皮のすぐ下と、その奥の気管支平滑筋という筋肉の中との2か所に分布しています(図1)。そもそも咳は、気管支という空気の通り道を確保するためにその中の異物などを体外に放出する生体防御反応として備わっている機能なので、表面の接触による刺激に反応したり、気管支が変形するような刺激に反応するために、こういった神経分布をしていることは理にかなっているのです。この2系統の神経のうちで、上皮下のものが刺激されて咳を生じるのがアトピー咳嗽、気管支平滑筋内のものが刺激されて生じるのが咳喘息と喘息なのです。また、咳喘息と喘息の違いは、気管支平滑筋が前者では“攣縮(れんしゅく)”という痙攣(けいれん)様の反応を起こしているだけであるのに対して、後者では実際に収縮して気管支が細く狭くなっているということにあります。そのため、咳喘息では咳は出るけれど息が吐きにくいという症状はなく、喘息ではあたかもストローを吹くように息を吐くのに抵抗があったり「ヒューヒュー」「ゼーゼー」する喘鳴という音が生じるのです。

【症状】

いろんな病気に時刻による変化がありますが、今回お話ししている3疾病は主として夜の病気です。昼に症状がないわけではありませんが、夜寝つくころから早朝起床時にかけて咳がひどくなるというのが最も多い症状です。その他には、会話をしていると咳き込んでしまったり、いつも喉の奥がイガイガするようだったり、何かが貼りついているような感じがする、といった症状を訴える方も多くおられます。もちろん喘息の場合は、特に息を吐くときに「ゼーゼー」「ヒューヒュー」といった音が聴かれることもあります。

【診断】

咳が出る病気は非常にたくさんあり、専門家でも1～2回の診察で全てを解決するのは困難です。今回取り上げた病気では、血液検査によって炎症反応やアトピー性アレルギーの有無をみたり、呼吸機能検査によって気管支が狭くなっていないか確認したり、気管支の過敏性を調べたりというアプローチをしますが、実際にはその他に感染症等々の可能性も考えながらさらに検査を加えるのが一般的です。しかし、気管支組織を顕微鏡で見ると好酸球が集まっているにもかかわらず、血液検査では好酸球も増えていなければアレルギー性タンパク質も増えていない、というケースもあり、なかなか一筋縄ではいきません。結果的に治療に対する反応をみて診断に至ることもあります。

【治療】

図2

これらの疾病はいずれも好酸球性炎症が原因で生じているので、ステロイド薬がよく効きます。ただし、ステロイド薬は他の臓器に一定以上の量が到達すると副作用を生じるので、気管支壁だけに効かせるのが理想です。そこで開発されたのが『吸入ステロイド薬(図2)』です。特に咳喘息と喘息では炎症が持続して気管支が損傷・修復を繰り返すことで長期的には“リモデリング”という状態に至り(図3)、喘息発作を重篤にし、時に死に至らしめることすらあります。昨今の日本でも毎年2000人以上の方が喘息発作で命を落とされているのです。また、咳喘息の方の約3分の1が将来的に喘息に移行するということもわかってきました。したがって、症状のないときにこそ『吸入ステロイド薬』で炎症を抑え、リモデリングや発作を生じないようにしようというのが現在の治療方針の基本となっています。そして、咳や喘鳴といった症状のあるときには更に気管支拡張薬などを追加して症状緩和をはかるのです。

図3

アトピー咳嗽については、喘息に移行したりリモデリングを生じるということがないので、症状のある時にだけ『吸入ステロイド薬』や『抗ヒスタミン薬』でアレルギー性炎症を抑えればよいと考えられています。

【最後に】

日本では慢性咳嗽すなわち8週間以上続く咳の約半数が咳喘息や喘息、残りのうちの約3分の1がアトピー咳嗽と考えられています。数週間続くような咳に悩まされている方は、「たかが咳」と思わず、内科や呼吸器科を受診してみることをお勧めします。

吹田市医師会　伴　秀利